

春レタスの腐敗病に注意しましょう。

[現在の状況]

- ① 2 月下旬現在、腐敗病の発病株率は平年よりやや高く、発生地点率は過去 11 年中最も高い（表 1）。
- ② 向こう 1 か月の気象予報（平成 21 年 3 月 6 日気象庁発表）によると、天気は数日の周期で変わり、期間の前半を中心に、平年と比べ曇りや雨または雪の日が多いと予想され、発生を助長する条件である。

表 1 春レタスにおける腐敗病の発生状況

発病株率 (%)			発生地点率 (%)		
本年値	(順位)	: 平年値	本年値	(順位)	: 平年値
1.6	(3)	: 1.1	60	(1)	: 26

※順位は過去 11 年中の順位、平年値は過去 10 年間の平均値

[防除対策]

- ① トンネル内が多湿になると発生が助長されるので、換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。
- ② 本病は凍霜害を受けると発病しやすいので、夜間のトンネル内保温に十分注意する。
- ③ 結球期になると特に発病しやすくなるため、発生に注意する。発病株は、早急に取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ④ 多発すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。また薬剤散布にあたっては丁寧に十分な量を散布する（表 2）。

表 2 結球レタスの腐敗病に登録のある主な薬剤（平成 21 年 2 月 18 日現在）

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数 (日)	本剤の使用回数 (回)	有効成分
アグレプト水和剤	2,000	14	2	ストレプトマイシン
スターナ水和剤	2,000	14	2	オキシロニック酸
ヨネポン水和剤	500	14	4	ノニルフェノールスルホン酸銅
バリダシン液剤 5	800	7	3	バリダマイシン
カスミンボルドー ^{注)} カッパーシン水和剤 ^{注)}	1,000	7	4	カスガマイシン+銅

注) 薬害防止のため、炭酸カルシウム剤を加用する。又、収穫間際の散布は避ける。

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。特に収穫前日数、使用回数には十分注意して下さい。